

第1回 市民科検討委員会 議事録

日時: 令和7年7月8日

出席者: 委員長 田村委員ほか 各委員

1. 開会

- 品川区教育委員会事務局統括指導主事の石原が進行を務めた。

2. 教育委員会挨拶

- 伊崎教育長より、市民科の理念と検討委員会の目的について挨拶があった。

3. 委員紹介

- 事務局より、委員名簿に基づき各委員の自己紹介を行った。

4. 委員長選任

- 田村委員が委員長に選任された。

5. 市民科についての報告

事務局から市民科検討委員会の設置目的について説明があり、これからの時代を生きる子どもたちに必要な学習内容、教員にとってわかりやすい指導方法、持続可能で効果的な市民科学習の3点を中心に検討していくことが報告されました。

事務局から、市民科は特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合再構築した品川区独自の教科であり、9年間を通して系統的に指導する特色があると説明がありました。

事務局から市民科の資質能力は5つの領域(自己管理、人間関係形成、自治的活動、文化創造、将来設計)と15の能力で構成されていることが報告されました。

全国学力学習状況調査の結果から、市民科に関連する項目では全体的に国や都の値よりも高い値を示していること、特に9年生になると6年生と比較して値が高くなる傾向があることが報告されました。

保護者アンケートでは、市民科学習は良い学習だと思うという回答が毎年9割以上と高い水準であることが示されました。

6. 協議

- ・20 年前に品川区で始まった市民科について、参加者から様々な意見が出された。
- ・子どもの自己肯定感や地域との連携の重要性、教員の指導力向上の必要性などが指摘された。
- ・市民科は時代の変化に合わせて進化する必要があるとの意見が多数あった。
- ・各委員から、市民科の成果と課題、家庭・地域との連携、学習内容の整理等について意見が出された。
- ・保護者の市民科に対する理解が不足している。
- ・複数の委員から、SNS などを活用した情報発信の方法を変えることで、保護者に自然に情報が入るようにする提案がありました。
- ・市民科授業地区公開講座への保護者の積極的な参加が少ない。
- ・委員から、公開講座の開催時間や事前告知を工夫し、休みを取りやすくするなどの対応が提案されました。
- ・教科書やステップにとらわれ過ぎた授業が見受けられる。
- ・調査研究会では、児童生徒が主体的に学び、自信を持って自分の考えを发表或し行動したりできるよう、教え込みによらない指導の工夫を収集していくことが報告されました。
- ・今年度は合計 4 回の検討委員会を開催し、国の学習指導要領の動きと同様に、今後の区立学校教育要領改訂を見据えて検討を進めていくことが決定されました。
- ・市民科調査研究会と市民科検討委員会を同時期に開催しながら、実際に指導してきた教員からの意見や児童生徒の現状等を踏まえて、これまでの市民科の振り返りや今後のあり方について検討していくことが決まりました。
- ・児童生徒および教職員を対象としたアンケートを実施し、市民科の現状や成果、改善点を明らかにしていくことが決定されました。
- ・今後の独自教科として市民科をより発展的に推進していくために、理念、内容、推進体制の視点から検討を進めることが合意されました。

・子どもの記憶に残る市民科の取り組みや、家庭での会話のきっかけになることの重要性が指摘された。

・保護者の参画について、ICTの活用など、新しい参画の方法を検討する必要性が述べられた。

・自分の意見を持ち、他者に伝えることの重要性が高まっており、市民科がそうした能力の育成に寄与できるとの意見が出された。

・教員側の市民科に対する理解や指導力の差が課題として指摘され、教員自身の成長を促すことの重要性が提案された。

7. 調査研究の実施

- 児童生徒と教職員を対象としたアンケート調査の実施が提案された。

- アンケートの設問内容や自由記述欄の設置など、委員からの意見を踏まえて調査内容を検討していくことになった。

- 調査結果を踏まえ、市民科のさらなる充実に向けた検討を進めていくことが確認された。

8. 今後の予定

- 事務局より、今年度の検討委員会の開催予定が説明された。

9. 閉会

以上が第1回市民科検討委員会の議事録の概要となります。